

丹波市の住まい・住環境の現状

(1) 住まい・住環境の動向

住まい・住環境の動向まとめ（統計調査による）

<丹波市総合計画>

- ・将来像「人と人、人と自然の創造的交流都市～みんなでつなぐ丹（まごころ）の里～」
- ・計画期間…平成 27 年度から 36 年度

<第2期丹波市人口ビジョン>

- ・将来目標人口 41,000 人（2060 年）

<丹波市の居住者の現状>

・人口…	61,511 人（R2）氷上地域や山南地域が多い 平成 7 年以降減少傾向 ※平成 7 年時点では 73,988 人
・世帯および世帯あたり人員…	22,997 世帯（R2）、2.67 人／世帯（R2） 一貫して増加 ※平成 7 年時点では 21,033 世帯、3.52 人／世帯
・高齢化率…	32.3%（H27） 一貫して上昇。県は、27.1%（H27）
・世帯構成…	単独世帯が増加 夫婦のみ世帯が増加 三世帯世帯が減少
・障がい者手帳保有率…	平成 24 年以降 4,700 人弱で推移
・収入別世帯…	200 万円以上 700 万円未満世帯が減少、200 万以下及び 700 万以上が増加し、二極化
・生活保護世帯…	平成 25 年以降減少

<住宅・住環境の特徴>

・住まい…	持家率が 18,254 戸 81.1%（H27） 総世帯数に占める公営借家世帯数は 4.2%（県は 7.7%） 借家に占める公営住宅の割合は 26.2%（県は 22.8%）
・建築時期…	持ち家の約 42%が昭和 55 年以前の住宅
・新築住宅…	新築 319 戸（H25）持ち家率 68.6% 平均延床面積 104.6 ㎡（H25） 新築住宅戸数は氷上地域（513 戸・特に石生）、柏原地域（433 戸特に柏原）、春日地域（295 戸・特に黒井）、市島地域（211 戸）の順に多い 春日、山南、市島地域は持ち家率 80%に対し、柏原、氷上地域は貸家が 30%以上
・地価…	平成 25 年以降下落が続き 15,700 円／㎡（下落率は△15%）
・空き家の状況…	総住宅数 26,680 戸（H30）のうち、空き家は 16.8%にあたる 4,470 戸 空き家の 6 割は一戸建、4 割が長屋建・共同住宅等であり、長屋建・共同住宅等が増加傾向。

① 丹波市の概要とまちづくりの方向

【市の概要】

・丹波市は、兵庫県の中東部、京都府との県境に位置し、北は福知山市、西は朝来市・多可町、南は西脇市、東は丹波篠山市と接する、面積 493.21 k m²、人口 61,511 人（令和 2 年国勢調査速報値）のまちである。阪神間から自動車等で 1 時間 30 分から 2 時間圏内であり、市内南部は阪神都市圏との関わりが強い一方で、北部では隣接する京都府の都市との関わりが強くなっている。気候は、瀬戸内海型・内陸型気候に属し、年間の寒暖差、昼夜の温度差が大きく、秋から冬にかけて発生する丹波地域の山々をつつむ朝霧・夕霧は、「丹波霧」と呼ばれ、豊かな自然環境に一層の深みと神秘さを醸し出している。



【地形】

・市域の約 75%は森林であり、美しい自然や田園風景が広がる緑豊かな地域となっている。小さな山々に囲まれた谷底平野や盆地が地域の骨格を形成し、そこに形成された田園地帯には集落が点在している。市内には本州で最も低い中央分水界（海拔 95m）があり、加古川水系の加古川、篠山川等が南に、由良川水系の竹田川等が北に流れている。

【歴史・沿革】

- ・丹波地域は、古代には大陸文化が大和へ伝承されるルートとして往来があり、出雲・但馬を経て大陸文化が丹波地域に伝えられた。一方で瀬戸内側から加古川、武庫川をさかのぼり大和文化が流入するなど、丹波地域は古代文化の十字路として栄えていた。
- ・古代の山陰道も通り、肥沃な堆積地に開けた条里の田園地帯が早くから形成された。七日市遺跡などにその痕跡が見て取れる。中世には、皇室や寺社等の荘園が小さな盆地領ごとに形成され、近代まで入会権や祭祀組織といったものが、集落相互の結びつきとして継承されてきた。
- ・中世からの荘園を基盤として発展し、江戸時代になると外様の織田氏柏原藩など 5 藩と 24 の旗本により小領分拠された。その後、近代に至るまで、京都文化の影響を受けて独自の文化を育んできた。
- ・集落の形態は、川に接している本郷や稲継、成松、佐治では、洪水から守るような形で地形を利用して形成されている。そのほかの多くの農村集落は、主に加古川及び竹田川流域に形成され、山稜に抱かれているような山裾の集落が多く見られる。
- ・柏原は八幡神社の門前町として形成され、江戸時代には陣屋が配され織田家の城下町として発展した。また黒井は荻野氏の城下町として栄え、近世に入ると切妻商家の家並みが形成された。
- ・宿場町としては、古代山陰道の佐治、旧播磨街道の和田などが栄え、また成松は高瀬舟に乗って入

る本郷からの荷の市場として栄えた。

- ・近年は、紅葉や寺社観光のほか、コスモス、れんげ、ひまわりなどの田園景観を楽しむ観光客を多く集めている。また、青垣地域はパラグライダーの場として人気が高まっており、山南地域の篠山川では、世界的に見ても貴重な恐竜化石等の発掘が進められ「丹波竜の里」として一躍有名になり、まちづくりも進んでいる。

② 人口・世帯

【人口】

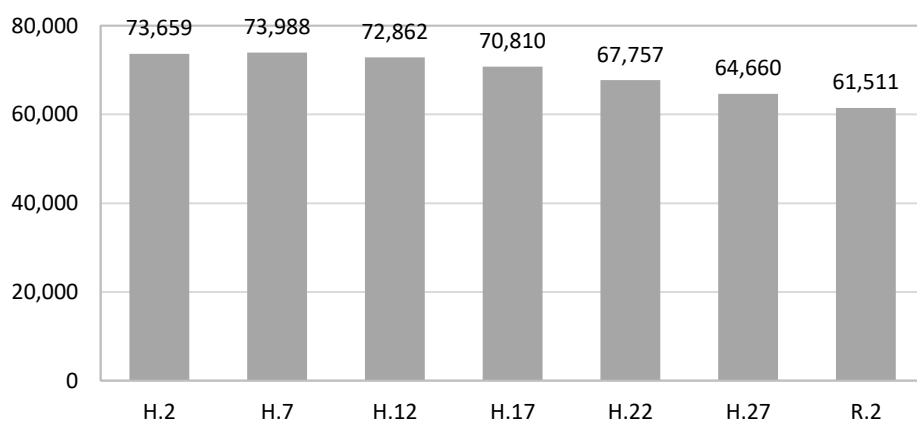
- ・総人口は、平成 7 年をピークに減少傾向が続いている。なお、平成 2 年における外国籍在住者は約 950 人で総人口の約 1.5%となっている。
- ・旧町別にみると、従来から減少傾向であった青垣地域と春日地域に加え、山南地域と市島地域については平成 7 年、氷上地域については平成 12 年、柏原地域についても平成 17 年をピークに減少に転じている。

表 人口の推移（全市、地域別）

人、%

	H.2	H.7	H.12	H.17	H.22	H27	R2	H27 構成比
丹波市	73,659	73,988	72,862	70,810	67,757	64,660	61,511	—
柏原地域	9,355	9,793	9,947	10,080	9,992	9,870		15.3
氷上地域	19,096	19,021	19,299	18,933	18,378	17,800		27.5
青垣地域	8,047	7,957	7,401	6,958	6,409	6,007		9.3
春日地域	13,082	12,963	12,390	11,913	11,502	10,903		16.9
山南地域	13,971	13,984	13,653	12,903	12,042	11,343		17.5
市島地域	10,108	10,270	10,172	10,023	9,434	8,737		13.5

資料：各年国勢調査 ※令和 2 年は速報値



資料：各年国勢調査 ※令和 2 年は速報値

図 人口の推移（全市）

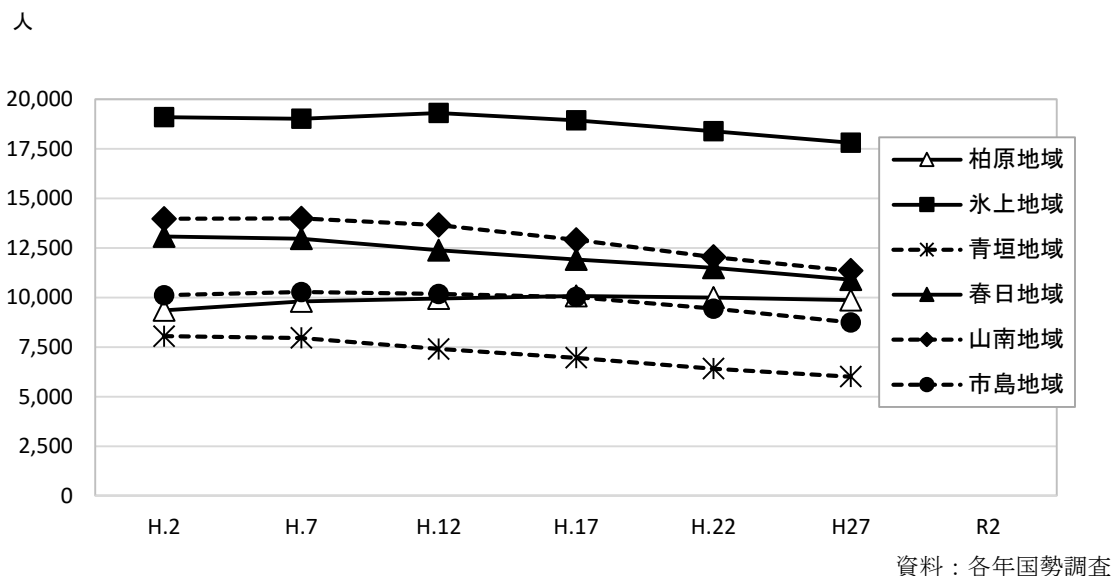


図 地域別人口の推移

【世帯】

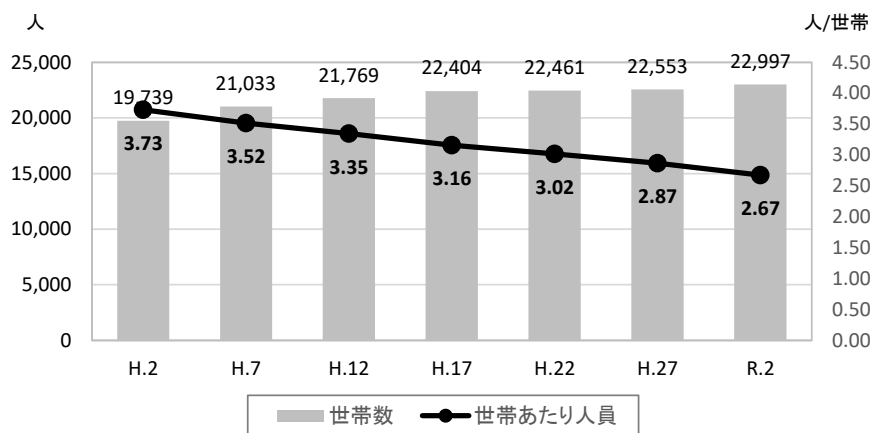
- ・平成 2 年以降の世帯数は増加傾向で推移し、令和 2 年には 22,997 世帯となっている。
- ・一方、世帯当たり人員は、減少傾向で推移しており、平成 2 年 3.72 人／世帯から、令和 2 年 2.67 人／世帯（速報値）となっている。
- ・家族類型別世帯割合では、平成 7 年以降、単独世帯、夫婦のみ世帯や一人親と子の世帯の割合が上昇している一方で、三世帯世帯の割合が低下しており、家族構成が大きく変化している。
- ・平成 27 年においては、夫婦と子ども世帯が 24.6% で最も高く、次いで、単独世帯が 22.7%、夫婦のみ世帯が 22.2% となっている。
- ・地域別にみると、柏原地域、氷上地域では世帯数の増加傾向が続いている。青垣地域、山南地域、市島地域では平成 17 年以降、春日地域では平成 22 年以降、世帯数減少の傾向となっている。

表 総世帯数と世帯当たり人員の推移

世帯、人/世帯

	H.2	H.7	H.12	H.17	H.22	H.27	R.2
世帯数	19,739	21,033	21,769	22,404	22,461	22,553	22,997
世帯あたり人員	3.73	3.52	3.35	3.16	3.02	2.87	2.67

資料：各年国勢調査 ※令和 2 年は速報値



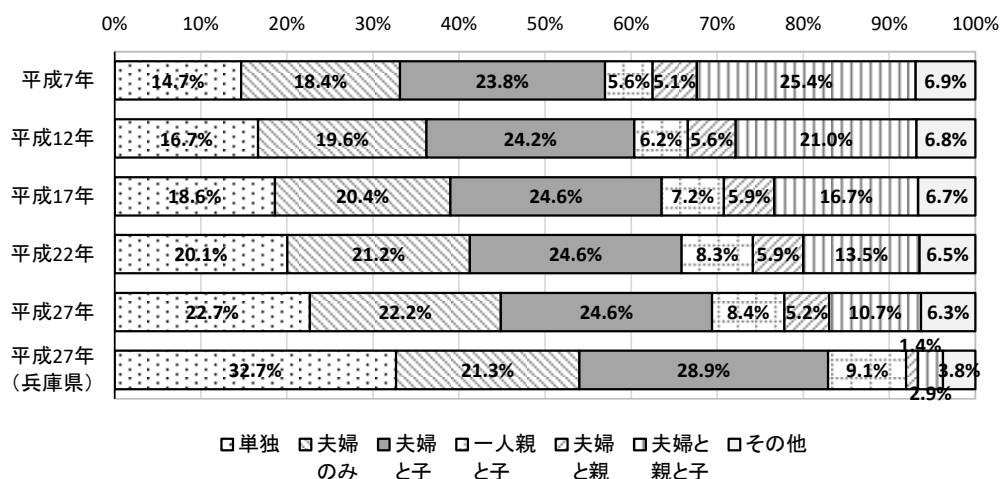
資料：各年国勢調査 ※令和 2 年は速報値

図 総世帯数と世帯当たり人員の推移

表 家族類型別世帯数の推移

									世帯
		単独	夫婦のみ	夫婦と子	一人親と子	夫婦と親	夫婦と親と子	その他	世帯総数
丹波市	平成7年	3,073	3,861	4,986	1,163	1,071	5,323	1,451	20,928
	平成12年	3,618	4,245	5,244	1,350	1,208	4,563	1,483	21,711
	平成17年	4,162	4,548	5,484	1,617	1,310	3,730	1,487	22,338
	平成22年	4,495	4,749	5,513	1,856	1,313	3,025	1,454	22,405
	平成27年	5,102	4,989	5,524	1,893	1,167	2,400	1,422	22,497
兵庫県	平成27年	756,223	491,848	668,447	209,941	31,751	67,085	86,989	2,312,284

資料：各年国勢調査



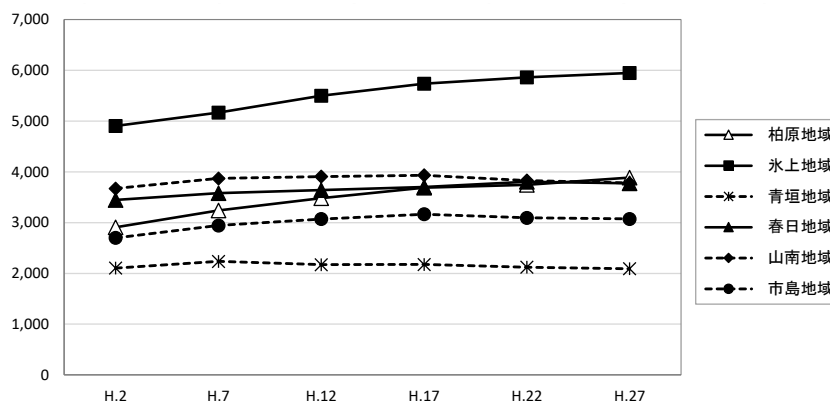
資料：各年国勢調査

図 家族類型別世帯数割合の推移

表 地域別世帯数の推移

	H.2	H.7	H.12	H.17	H.22	H.27	R.2	H.27 構成比
丹波市	19,739	21,033	21,769	22,404	22,461	22,553	22,997	-
柏原地域	2,910	3,238	3,482	3,688	3,746	3,886		17.2
氷上地域	4,904	5,166	5,499	5,739	5,862	5,948		26.4
青垣地域	2,105	2,236	2,171	2,177	2,123	2,091		9.3
春日地域	3,447	3,580	3,639	3,700	3,806	3,775		16.7
山南地域	3,672	3,870	3,908	3,934	3,830	3,780		16.8
市島地域	2,701	2,943	3,070	3,166	3,094	3,073		13.6

資料：各年国勢調査



資料：各年国勢調査

図 地域別世帯数の推移

【年齢別人口】

- ・平成 27 年における年齢 3 区分別人口割合は、年少人口 12.9%、生産年齢人口 54.7%、老年人口 32.3%となっている。10 年前の平成 12 年と比較すると、年少人口が 2.1%、生産年齢人口が 2.2%の減少、老年人口は 4.4%増加しており、高齢化が著しく進行している。
- ・また平成 27 年において、兵庫県と比較すると、本市の生産年齢人口割合は兵庫県より低く、年少人口割合は兵庫県と同程度、老年人口割合は、兵庫県より高くなっている。
- ・地域別に平成 27 年の高齢化率をみると、柏原地域では 25.1%と県平均よりやや低い数値になっているが、他の 5 地域では 30%を超えており、特に青垣地域で 36.4%と高い高齢化率となっている。
- ・さらに、男女別 5 歳階級別人口をみると、いわゆる「団塊世代」の 65～69 歳の人口が最も多く、次いでその前後の年齢層や「団塊ジュニア世代」である 40～44 歳の人口が多くなっている。
- ・逆に大学等の進学や就職時期にあたる 20～24 歳や 0～4 歳の人口が少なく、若者の流出や少子化が進んでいることがうかがえる。

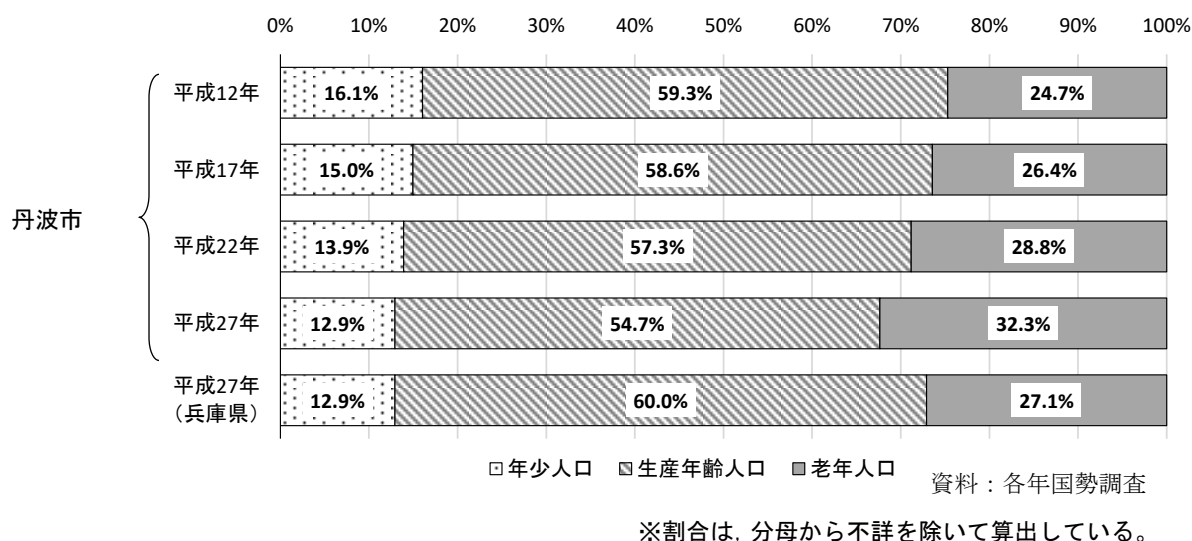


図 年齢別 3 区分別人口構成の推移

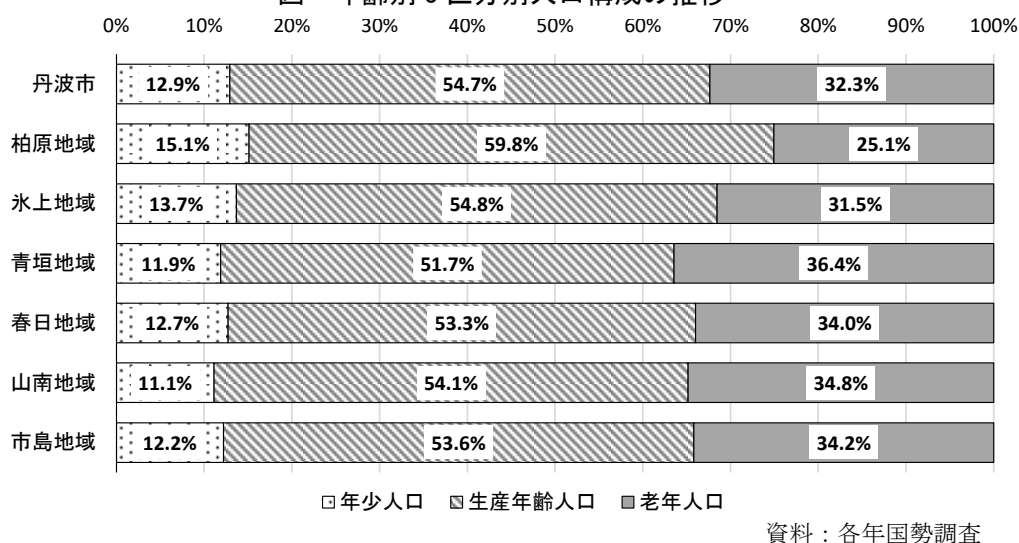
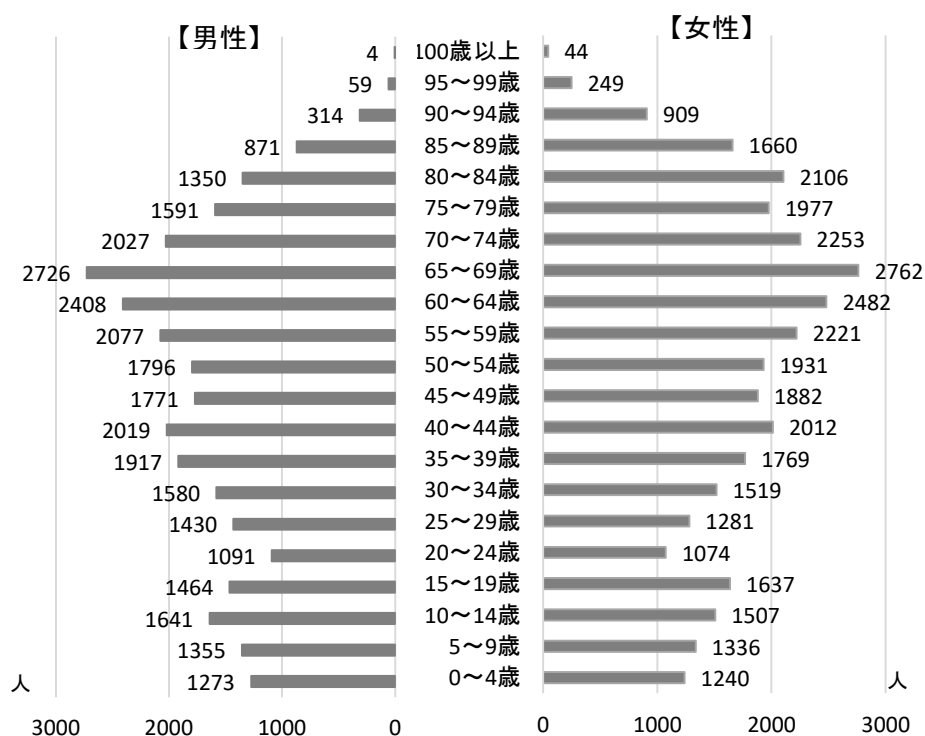


図 地域別年齢 3 区分別人口構成

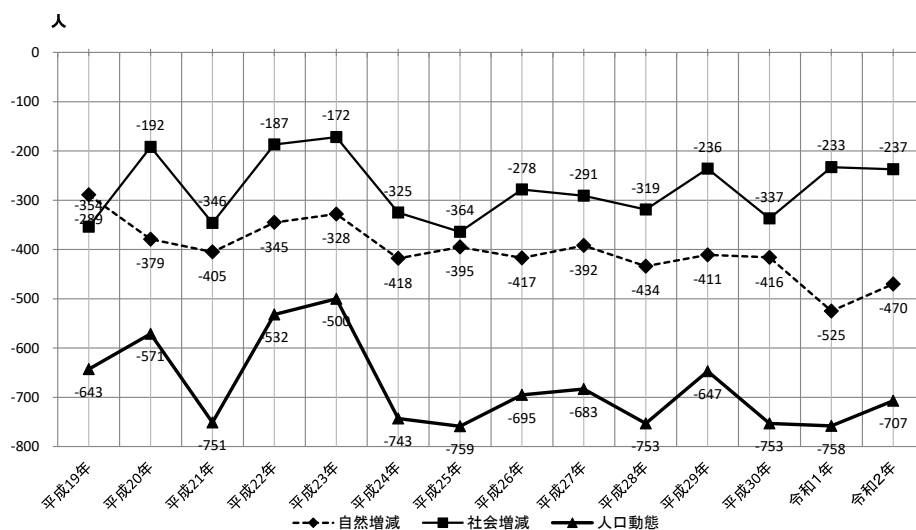


資料：H27 国勢調査

男女別5歳階級別人口

【人口動態】

- ・令和2年の社会増減（転入者数－転出者数）は、転出者数が転入者数を上回って237人の減少となっており、自然増減（出生者数－死亡者数）も死亡者数が出生者数を上回り470人の減少となっている。その結果、人口動態（社会増減＋自然増減）は、707人の減少となっている。
- ・年により減少幅に変動はあるものの、社会増減については転出超過、自然増減については自然減の傾向が一貫して続いている。



資料：兵庫県の人口の動き

図 人口動態の推移

表 人口の自然増減と社会増減

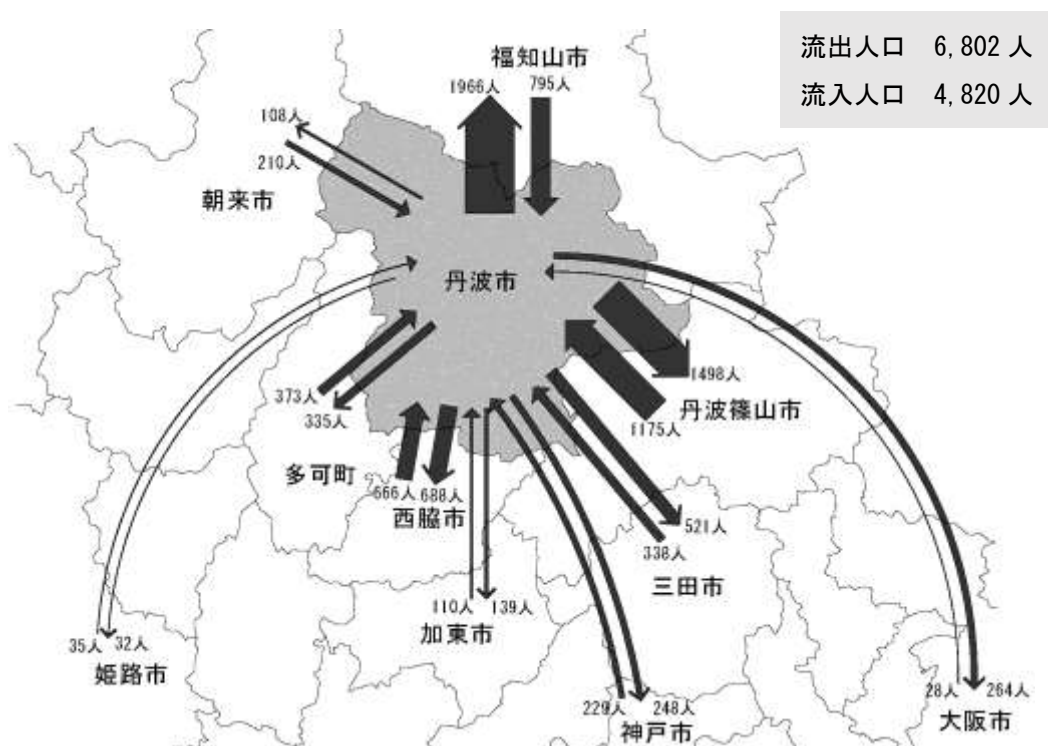
人

	自然増減			社会増減			人口動態
	自然増減	出生	死亡	社会増減	社会増	社会減	
平成19年	▲ 289	539	828	▲ 354	1,618	1,972	▲ 643
平成20年	▲ 379	537	916	▲ 192	1,598	1,790	▲ 571
平成21年	▲ 405	503	908	▲ 346	1,467	1,813	▲ 751
平成22年	▲ 345	534	879	▲ 187	1,435	1,622	▲ 532
平成23年	▲ 328	555	883	▲ 172	1,492	1,664	▲ 500
平成24年	▲ 418	485	903	▲ 325	1,496	1,821	▲ 743
平成25年	▲ 395	509	904	▲ 364	1,403	1,767	▲ 759
平成26年	▲ 417	495	912	▲ 278	1,451	1,729	▲ 695
平成27年	▲ 392	457	849	▲ 291	1,420	1,711	▲ 683
平成28年	▲ 434	469	903	▲ 319	1,432	1,751	▲ 753
平成29年	▲ 411	441	852	▲ 236	1,492	1,728	▲ 647
平成30年	▲ 416	438	854	▲ 337	1,408	1,745	▲ 753
令和1年	▲ 525	379	904	▲ 233	1,589	1,822	▲ 758
令和2年	▲ 470	382	852	▲ 237	1,407	1,644	▲ 707

資料：兵庫県の人口の動き ※社会増：転入等、社会減：転出等

- ・通勤・通学による人口の流動を見ると、市内に居住し市外へ通勤・通学する人口は6,802人、市外に居住し市内に通勤・通学する人口は4,820人で、流出超過となっている。本市からの流出人口が多いのは、福知山市への1,966人、丹波篠山市への1,498人である。特に福知山市は、本市から通勤・通学する人口の約3割弱が向かう先となっており結びつきが強い市となっている。

表 15歳以上通勤・通学者数



※丹波篠山市（調査時は篠山市）

資料：H27年国勢調査

- ・市外との転入、転出の状況を見ると、市外からの転入は神戸市からが8.8%と最も多く、次いで大阪市5.5%、福知山市5.0%の順で多くなっている。また、市外への転出は、神戸市が11.2%と最も多く、次いで篠山市7.9%、福知山市5.6%の順で多くなっている。

③ 住宅事情の動向

【住宅の所有関係】

- ・持ち家率は81.1%（平成27年）で、兵庫県の64.0%を大きく上回っている。持家世帯は、概ね8割を占めるが、構成比は微減傾向、実数も平成27年には減少に転じている。民営借家世帯は実数、構成比ともに増加傾向が続き、平成27年には構成比がおおむね1割となっている。
- ・公営住宅カバー率（総世帯数に占める公営借家世帯数）は4.2%で、兵庫県の7.7%より3.5%低くなっている。民営借家率は10.3%で、兵庫県より13.6ポイント低くなっている。
- ・公営借家率は26.2%で兵庫県の22.8%よりポイント高く、借家に占める公営住宅の割合が高くなっている。
- ・地域別にみると、以下の点が指摘できる。
 - ・持ち家率は、他地域に比較して、柏原地域でかなり低い。
 - ・民営借家率は、柏原地域で顕著に高く、地域内外からの人口流入の結果と考えられる。氷上地域についても、他の4地域に比較して高くなっている。
 - ・公営住宅カバー率は、柏原、市島、青垣の3地域が市平均を上回っており、山南地域で低くなっている。
 - ・公営借家率は、民営借家率の低い青垣、市島の両地域で特に高くなっている。

表 住宅の所有関係

世帯

		持ち家	公営借家	民営借家	給与住宅	間借り	住宅以外	公営借家率
丹波市	平成7年	17,563	1,036	1,234	464	49	582	37.9
	平成12年	18,005	1,039	1,496	505	96	570	34.2
	平成17年	18,267	1,172	1,752	406	135	606	35.2
	平成22年	18,350	1,078	1,929	369	202	489	31.9
	平成27年	18,254	947	2,312	358	123	503	26.2
兵庫県	平成27年	1,480,548	177,335	551,796	48,551	14,943	39,110	22.8
篠山市	平成27年	12,497	607	1,787	244	97	303	23.0
西脇市	平成27年	11,118	977	2,178	395	128	235	27.5
朝来市	平成27年	8,971	363	1,582	269	52	219	16.4
多可町	平成27年	5,867	417	173	36	28	121	66.6
福知山市	平成27年	20,827	1,446	7,619	1,263	205	705	14.0

（平成27年 構成比）

構成比（%）	丹波市	81.1%	4.2%	10.3%	1.6%	0.5%	2.2%	26.2%
	柏原地域	63.8%	7.1%	23.3%	3.8%	0.5%	1.5%	20.8%
	氷上地域	78.9%	3.1%	13.4%	1.2%	0.5%	2.8%	17.4%
	青垣地域	89.9%	5.0%	2.9%	0.4%	0.4%	1.4%	60.7%
	春日地域	85.5%	3.8%	6.7%	1.3%	0.6%	2.1%	32.0%
	山南地域	89.1%	2.0%	4.1%	1.7%	0.6%	2.5%	25.4%
	市島地域	86.3%	5.4%	4.7%	0.6%	0.6%	2.3%	50.5%
	兵庫県	64.0%	7.7%	23.9%	2.1%	0.6%	1.7%	22.8%
構成比	篠山市	80.4%	3.9%	11.5%	1.6%	0.6%	2.0%	23.0%
	西脇市	74.0%	6.5%	14.5%	2.6%	0.9%	1.6%	27.5%
	朝来市	78.3%	3.2%	13.8%	2.3%	0.5%	1.9%	16.4%
	多可町	88.3%	6.3%	2.6%	0.5%	0.4%	1.8%	66.6%
	福知山市	65.0%	4.5%	23.8%	3.9%	0.6%	2.2%	14.0%

資料：各年国勢調査

※公営借家率：借家総世帯数（公営借家+民営借家+給与住宅）に占める公営借家世帯数

※※給与住宅：勤務先の会社・官公庁・団体などの所有、又は管理する住宅に、職務の都合上又は給与の一部として居住している場合。なお、この場合、家賃の支払いの有無を問わない。また、勤務先の会社又は雇主が借りている一般の住宅に住んでいる場合も含まれる。

【建築時期】

- ・持ち家の建築時期をみると、平成 30 年時点で建築から約 40 年以上経過した住宅（昭和 55 年以前）がおよそ 42%、約 20 年以上経過ではおよそ 75%と過半を大きく超える住宅が該当している。
- ・木造一戸建てが大半を占めると考えられる持ち家の 42%が新耐震設計基準によらない住宅ということになる。

表 住宅の建築時期

戸、%

	総 数	持ち家	借 家	構成比		
				総 数	持ち家	借 家
昭和45年以前	4,680	4,540	150	21.1	23.9	5.0
昭和46年～56年	3,590	3,380	220	16.2	17.8	7.3
昭和56年～平成2年	3,270	2,860	410	14.8	15.0	13.5
平成3年～12年	4,480	3,540	940	20.2	18.6	31.0
平成13年～22年	3,270	2,710	560	14.8	14.3	18.5
平成23年～27年	1,280	920	360	5.8	4.8	11.9
平成28年～30年9月	950	570	380	4.3	3.0	12.5
総 数	22,130	19,010	3,030	100.0	100.0	100.0

※構成比は総数に対する割合であり、合計が 100 と一致しない場合がある

資料：平成 30 年住宅・土地統計調査

【障害者手帳等保有者数】

- ・障害者手帳等保有者は、平成 24 年以降、4,700 人弱で推移しており、平成 30 年度は 4,678 人となっている。障害種別については、身体障害者が多く、概ね 7 割を占めている。身体障害者手帳保持者は微減、療育手帳保持者、精神障害者手帳保持者は微増の傾向にある。

表 障害者手帳保持者数の推移

人

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
身体障害者手帳 保有者	3727	3690	3612	3532	3510	3378	3324
精神障害者保健福祉手帳 保有者	420	439	449	480	495	515	577
療育手帳 保有者	617	624	641	672	701	735	777
合 計	4,764	4,753	4,702	4,684	4,706	4,628	4,678

※各年度末の人数

資料：丹波市主要統計資料（HP：くらし）

【収入別世帯】

- ・平成 30 年の総数を平成 25 年と比較すると、200 万円未満、700 万円以上 1,000 万円未満、1,000 万円以上 1,500 万円未満、1,500 万円以上の階層が増加し、200 万円以上 700 万円未満の各階層では減少している。
- ・持ち家では、700 万円以上の階層での増加が顕著であるほか、200 万円未満の階層も若干増加している。
- ・借家については 300 万円未満の階層が増加する一方、300 万円以上 400 万円未満の階層の減少が顕著である。

表 住宅の所有関係、世帯の年間収入階級別主世帯数

	主世帯数（世帯）						構成比（％）					
	総数		持ち家		借家		総数		持ち家		借家	
	H25	H30	H25	H30	H25	H30	H25	H30	H25	H30	H25	H30
～200万円	4,270	4,450	3,720	3,810	550	640	19.3	20.2	19.4	20.0	18.3	21.4
200～300	4,380	4,140	3,730	3,330	640	820	19.8	18.8	19.5	17.5	21.3	27.4
300～400	3,770	3,400	2,970	2,960	800	440	17.0	15.4	15.5	15.6	26.7	14.7
400～500	2,760	2,580	2,300	2,110	460	470	12.5	11.7	12.0	11.1	15.3	15.7
500～700	3,570	3,430	3,170	3,020	400	420	16.1	15.5	16.6	15.8	13.3	14.0
700～1000	2,210	2,540	2,110	2,370	100	170	10.0	11.6	11.0	12.4	3.3	5.7
1000～1500	950	1,090	900	1,060	50	30	4.3	5.0	4.7	5.6	1.7	1.0
1500～	250	360	250	360	—	—	1.1	1.6	1.3	1.9	—	—
総 計	22,160	21,990	19,150	19,020	3,000	2,990	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※総数は内訳の合計、統計上の値と異なる場合がある

資料：各年住宅・土地統計調査

【生活保護世帯】

- ・平成 18 年には 108 世帯であった生活保護世帯（月平均）は、平成 25 年まで増加し続け 175 世帯に達したが、その後やや減少傾向に転じており、平成 30 年には 122 世帯まで減少している。

表 生活保護実世帯数（月平均）の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
世帯数	108	109		139	165	180	173	175	159	160	142	130	122

資料：丹波市主要統計資料（HP：くらし）

④ 建設動向

【新設住宅】

1) 新設住宅戸数の推移

- ・平成 25 年度の丹波市における新設住宅の戸数は 319 戸である。
- ・平成 19 年度の新設住宅の戸数は 371 戸であったが、その後減少し、平成 21 年度から平成 24 年度までは 200 戸前後で推移していた。平成 25 年度に大きく増加傾向に転じているが、これは平成 26 年 4 月に消費税率が 8 %に引き上げられたことに起因すると考えられる。
- ・利用関係別に過去 7 年間の割合をみると、持ち家が 68.6%、貸家が 26.9%、給与住宅が 0.7%、分譲住宅が 3.9%となっており、持ち家が大半を占めている。

2) 戸当たり平均延べ床面積の推移

- ・戸当たり平均延べ床面積は、持ち家、分譲住宅は平均して 100 m²以上であるのに対して、貸家は 55 m²以下となっている。
- ・持ち家の延べ床面積は平成 19 年以降ほぼ同等の水準となっているのに対して、分譲住宅の延べ床面積は平成 19 年には 172.3 m²であったが、その後減少し、平成 21 年以降は概ね 100 m²で推移しており、平成 25 年の延べ床面積は 104.6 m²となっている。

3) 地域別新設住宅戸数の推移

- ・過去 7 年間の地域別新設住宅戸数の推移をみると、氷上地域での戸数が 513 戸と最も多く、次いで柏原地域が 433 戸、春日地域が 295 戸、市島地域が 211 戸となっている。
- ・春日、山南、市島地域では持ち家の割合が 80%以上と高い割合を占めている一方で、柏原地域と氷上地域は貸家の割合が高く、30%以上となっている。

4) 大字別の持ち家新設住宅戸数

- ・持ち家の新設住宅について、大字別にみると、氷上町の石生（117 戸）、柏原町の柏原（92 戸）が群を抜いて多く、次いで春日町の黒井（44 戸）が多くなっている。他は、旧町の中心となる市街地であっても 20 戸台と極端な差になっている。

【地価の動向】

- ・兵庫県地価調査による令和 2 年における住宅地の平均価格は、15,700 円／m²である。
- ・平成 25 年以降についてみると地価は下落しており、平成 25 年から令和 2 年の間に、15%程度安くなっている。

表 住宅地の平均価格

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	円/m ² 変動率 (R26/H25)
丹波市	18,600	18,100	17,700	17,300	16,900	16,600	16,400	15,700	-15.6

資料：兵庫県地価調査

【空き家の状況】

- ・平成30年における住宅数はおよそ26,680戸で、平成25年と比べ大きな変化はない。
- ・このうち空き家は、4,470戸で、住宅総数の16.8%、平成25年と比較すると、180戸の増加となっている。
- ・平成30年の空き家のおよそ6割は一戸建、4割が長屋建・共同住宅・その他である。平成25年と比べると一戸建ての戸数・割合が減少している。
- ・空き家の種類については、「その他の住宅」が空き家の7割前後を占めている。平成30年の戸数は3,190戸で、平成25年と比較し、380戸の増加となっている。「その他の住宅」は、ほぼ全が一戸建であり、居住者が不在となった持ち家が大半を占めると考えられる。
- ・「賃貸又は売却用住宅」の空き家は880戸で平成25年と比べ減少している。長屋建・共同住宅・その他が多く、平成30年においては9割を占めている。

表 空き家数

(人、%)

		平成25年 (a)	平成30年 (b)	増 減 (b－a)	構成比 (H30)
住宅総数		26,700	26,680	－20	－
空き家総数	総数	4,290	4,470	180	100.0
	一戸建	2,890	2,680	－210	60.0
	長屋建・共同住宅・その他	1,390	1,790	400	40.0
二次的住宅 (別荘・その他)	総数	400	390	－10	100.0
	一戸建	350	280	－70	100.0
	長屋建・共同住宅・その他	40	120	－	－
賃貸又は 売却用住宅	総数	1,080	880	－200	100.0
	一戸建	170	90	－80	10.2
	長屋建・共同住宅・その他	910	790	－120	89.8
その他の住宅	総数	2,810	3,190	380	100.0
	一戸建	2,370	2,310	－60	72.4
	長屋建・共同住宅・その他	440	880	440	27.6

資料：各年住宅・土地統計調査

⑤ 都市基盤の状況

- ・本市の公共施設は合併により 6 町の公共施設を引き継ぎ、その後必要に応じた整備を行っている。
令和 3 年 4 月 1 日時点の各施設の整備状況は以下の通りである。

【認定こども園、幼稚園、子育て学習センター】

- ・市内には、認定こども園が 13 ヶ所、小規模保育施設 2 ヶ所、子育て学習センターが 6 ヶ所、児童館が 1 ヶ所立地している。市全域に「認定こども園」を設置、幼児教育・保育を一体的に提供できる体制が整えられている。

【小学校・中学校・高校・専門学校】

- ・市内各地域に小学校・中学校が整備されており、市内には、小学校が 22 校、中学校が 7 校整備されている。また、市内には、高校が 3 校、専門学校が 1 校、特別支援学校が 1 校立地している。

【文化施設・スポーツ施設】

- ・市内各地域に文化施設が、また柏原地域を除くその他の地域にはスポーツ施設が整備されており、市内には、文化施設が 13 ヶ所、スポーツ施設が 14 ヶ所立地している。
- ・市島地域は、他の地域に比べスポーツ施設が多く、5 ヶ所整備されている。

【医療施設・福祉施設】

- ・兵庫県立丹波医療センター（2019 年開設）が氷上地域に立地している。このほか、氷上地域に民間病院と休日応急診療所、青垣地域に国保診療所が立地している。
- ・福祉施設等は、各地域に整備されており、老人ホーム等の高齢者福祉施設 12 ヶ所、サービス付き高齢者向け住宅は 3 ヶ所、障害者支援施設（入所）4 ヶ所、児童養護施設 1 ヶ所が立地している。

【交通基盤】

- ・舞鶴若狭自動車道が市の東部、北近畿豊岡自動車道が市の北部から中部を通っている。
北近畿豊岡自動車道は、春日地域で舞鶴若狭自動車道と接続し、市内には氷上、青垣、春日地域にインターチェンジが設置されている。他にも国道 175、176、427、429 号及び主要地方道青垣柏原線、篠山山南線、その他県道が主要な道路網となっている。
- ・鉄道網については、JR 福知山線（下滝駅～丹波竹田駅）、加古川線（谷川駅～久下村駅）が市内を通っている。市の中心的な柏原駅は、特急停車駅となっている。
- ・路線バスについては、現在民間事業者 1 社で運営されており、柏原駅を中心に交通網が広がっている。
デマンド型乗合タクシーについては、平成 23 年 2 月から運行を開始し、合計 13 台の車両が旧町域内を運行している。

【商業施設（大規模小売店舗）】

- ・大規模小売店舗は、市内に 13 店舗立地しており、主に広域拠点に集積している。また、青垣地域、山南地域には大規模小売店舗が立地していない。